



「矯正・保護課程」オンライン講座

2025年度社会人受講生募集

～この講座でなければ聴くことのできない実務に役立つ科目を厳選～

社会人受講生らの要望に応え、提供科目を4科目から6科目に拡大!!

龍谷大学矯正・保護総合センターでは、教育事業の一環として本学卒業生や社会人、地域の方などが、本学学生と一緒に授業を受講する「矯正・保護課程」を開講しています。

「矯正・保護課程」は、矯正・保護分野の仕事や活動に携わる人のリカレントやリスクリングといった社会人の学び直しに適した内容にもなっています。

そこで、矯正・保護総合センターでは、社会人受講生の受講機会の拡大をめざし、2023年度から試行的に大学に来なくてもインターネット環境を利用してオンライン上でも授業が受けられる科目を一部提供しています。

2024年度は、保護司をはじめ、矯正施設や更生保護施設で働く職員、地方公務員、社会福祉士、篤志面接委員、NPO法人職員など、様々な分野で活躍されている社会人受講生ら延べ約120人が「矯正・保護課程」で学びました。

オンライン講座の授業は、従来どおり対面で授業を行うとともに、各回の授業を録画し、それを翌日以降に配信する形で提供します。

よって、大学へ来て対面で授業を受講できますし、ご自宅や職場など自由な場所で自由な時間に録画した授業を一定期間何度でも繰り返し視聴し学習することができます。(※：科目によって1つの講義の公開期間が異なるのでご注意ください)

つきましては、社会人受講生向けオンライン講座開講3年目を迎え、提供科目の拡充を望む声が社会人受講生らから多く寄せられていることを受け、**2025年度はこれまで提供してきた深草学舎開講の4科目(「矯正医学」「被害者学」「犯罪学」「アディクション論」)に加え、新たに同学舎開講の「犯罪心理学」「刑事司法と福祉」の2科目もオンライン講座で提供します。**

社会人の皆様、是非とも新たな学びの扉を開いてみませんか。多数の方のお申込みを心よりお待ちしております。

内 容

1. 申込期間

2025年3月17日(月)～2025年4月1日(火)

2. 申込方法

郵送での申し込みとなります。

龍谷大学矯正・保護総合センター HP掲載の方法に従い、お申込みください。(URL: <https://rcrc.ryukoku.ac.jp>)



3. 受講料

1科目：3,140円(税込み)

4. 募集科目(6科目)

「矯正医学」「被害者学」「犯罪学」「アディクション論」「犯罪心理学」「刑事司法と福祉」

※講義概要や授業担当者等は裏面の2025年度シラバス内容をご参考ください。

5. 開講場所

龍谷大学深草キャンパス

※京阪本線「龍谷大前深草」駅下車徒歩約3分、JR奈良線「稻荷」駅下車徒歩約8分、京都市営地下鉄烏丸線「くいな橋駅」下車徒歩約7分

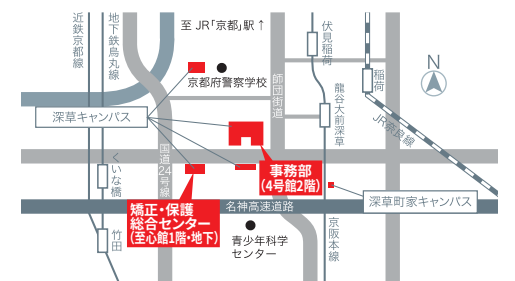
6. 授業期間

通 年	前 期	後 期
2025年4月～2026年1月	2025年4月～2025年7月	2025年9月～2026年1月

③この講座は申込時に提出いただいた書類をもとに受講資格審査を行い、受講者を決定します。

詳しくは下記の問い合わせ先に
「2025年度受講要項・シラバス」
をご請求ください。

※社会人受講生対象の科目はその他にも延べ22科目
開講予定です。(ただし、これらは全て大学での対面
授業となります)



問合せ先

龍谷大学 矯正・保護総合センター事務局

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67

Tel.075-645-2040

E-mail: kyosei-hogo@ad.ryukoku.ac.jp

参考：2025年度シラバス内容を掲載

※受講生の理解の様子や授業の進度等によりシラバスの内容を一部変更することがあります。

授 業 科 目	矯正医学		2単位 (本学学生)	/	22.5時間 (社会人等)	担 当 者	定 本 ゆきこ 京都少年鑑別所医務課長（精神科）
授 業 テー マ	矯正施設における医療について						市 川 昌 孝 西日本成人矯正医療センター長
開 講 曜 講 時	〈深草学舎〉水曜日第4・5講時(後期 隔週開講)						中 野 温 子 浪速少年院医務課長
講 義 概 要	矯正施設における医療とはどのようなものなのか、どのようなものであるべきなのか。実際に矯正施設で働く現役医務官が講義します。刑務所、少年院、少年鑑別所で行われている医療の現状と浮かび上がる問題点、対象となる疾患の特徴等を示し、矯正医療への理解を深めて頂きたいと思います。成人矯正医学（6回）を市川が、少年矯正医学（9回）を定本と中野が担当します。						
講 義 計 画	1・2 回目	少年鑑別所の機能と精神医学から見た非行のメカニズム～発達障害、虐待を中心に（定本）	8・9 回目	少年院における矯正医療（中野）			
	3・4 回目	精神医学概論とメンタルヘルス、女性における非行・犯罪について（定本）	10・11 回目	矯正医療を理解するために（市川）			
	5 回目	性非行・性犯罪について（定本）	12・13 回目	感染症(COVID-19・インフルエンザ・ノロウイルス・結核・肝炎・HIV等）（市川）			
	6・7 回目	アルコール依存、薬物依存について（中野）	14・15 回目	覚せい剤・薬物依存・神経発達症・人格障害・認知症・摂食障害・医師から見た矯正施設等（市川）			

授 業 科 目	被害者学		4単位 (本学学生)	/	45時間 (社会人等)	担 当 者	西 村 重 則 元 広島矯正管区長
授 業 テー マ	犯罪被害者及び被害者支援の現状						
開 講 曜 講 時	〈深草学舎〉水曜日第2講時(通年)						
講 義 概 要	刑事政策や犯罪者・非行少年の処遇に関心のある者にとって極めて重要な意味を持つ犯罪被害者について、その現状や被害者支援の状況等をご紹介します。						
講 義 計 画	1 オリエンテーション (第1回)			(2) 犯罪被害者等基本法、犯罪被害者等基本計画 (第 20 回)			
	2 被害学、犯罪被害者とは (第2回～第4回)			(3) 警察、検察、裁判所等の被害者支援			
講 義 計 画	3 犯罪被害者の現状			・ 警察における取組み (第 21 回、第 22 回)			
	(1) 犯罪被害者の統計的実態 (第5回)			・ 検察における取組み (第 23 回、第 24 回)			
	(2) 犯罪被害に遭うということ (第6回～第9回)			・ 少年事件における取組み (第 25 回、第 26 回)			
	(3) 犯罪被害者の心理 (第 10 回～第 13 回)			・ 更生保護における取組み (第 27 回)			
	(4) 交通事故被害者、少年事件被害者、性犯罪被害者等 (第 14 回～第 17 回)			・ 矯正施設における取組み (第 28 回)			
講 義 計 画	4 犯罪被害者支援の現状			(4) 地方公共団体における被害者支援 (第 29 回)			
	(1) 犯罪被害者支援の歩み (第 18 回、第 19 回)			(5) 支援者のメンタルケア、まとめ (第 30 回)			
※上記の内容の他、犯罪被害者の方及び犯罪被害者の支援者の方の講話を授業計画の中で予定しています。							

授 業 科 目	犯罪学		2単位 (本学学生)	/	22.5時間 (社会人等)	担 当 者	浜 井 浩 一 龍谷大学法学部教授
授 業 テー マ	犯罪を科学する：(刑罰)信仰に基づく犯罪対策から、エビデンスに基づく犯罪対策へ						
開 講 曜 講 時	〈深草学舎〉木曜日第2講時(後期)						
講 義 概 要	<p>戦後、長い間、日本は、世界一の治安を誇っています。しかし、1990年代に入り、いわゆるバブル経済が崩壊し、日本の治安に関しても疑問を投げかける声が多く聞かれるようになり始めました。そして、治安の悪化を懸念する声は、1997年に神戸で発生した児童殺傷事件以降の一連の少年犯罪から一気に高まりを見せ、2000年に世田谷で起きた一家殺人事件、2001年の大阪教育大学附属池田小学校での児童無差別殺傷事件、2003年には長崎で12歳の少年による幼児殺害事件、2004年には奈良で女児誘拐殺人事件、2005年には広島と栃木で同様のショッキングな事件が起こり、こうした傾向に拍車をかけました。その結果、2003年の総選挙では、犯罪対策が大きな争点ともなり、少年法を含めて刑事立法による厳罰化が加速しました。現在でも少年犯罪が凶悪化したとの言説の下、民法の成年年齢の引下げに呼応して、少年法の適用年齢を20歳から18歳に引き下げるべきとの議論が起き、2022年に特定少年という新たなカテゴリーが新設されました。</p> <p>しかし、よく考えてください。少子高齢化で若者が減っているのに犯罪が増えたりするのでしょうか。皆さんが犯罪に遭う現実のリスクは増加しましたか。日本の警察は、そんなにだらしなくなったのでしょうか。実際は刑法犯の認知件数は2002年から減少し続け、殺人の認知件数も戦後最低を記録し、ついに未遂も含めて1,000件を下回り、刑務所も少年院も次々と閉鎖されています。心の時代と言われ、非行少年や犯罪者の心の闇が問題となっていますが、心の闇とは何なのでしょう。監視(防犯)カメラは本当に犯罪を防止することができるのでしょうか。厳罰化など力による犯罪対策は、犯罪を抑止することができるのでしょうか。刑務所には、凶悪犯罪者ではなく、認知症の高齢者など社会的弱者がどんどん集められています。刑法や刑罰は誰から誰を守ろうとしているのでしょうか。</p> <p>犯罪学は、再犯防止を含む犯罪防止と犯罪者処遇を研究する研究分野です。この講義では、理論だけでなく、講師が法務省で犯罪者処遇や犯罪白書の作成に関わっていた事例や体験を交えながら、犯罪学という窓を通して現代日本の犯罪と刑事政策を考えてみたいと思います。</p>						
講 義 計 画	1回目 オリエンテーション：犯罪とは何か 2回目 一見効果的な犯罪対策(スケアードストレイト・プログラム) 3回目 日本の治安は悪化しているのか？(少子高齢化社会と犯罪) 4回目 刑罰に関する統計入門(刑罰に関する統計) 厳罰化が作り出すもの 5回目 刑務所は社会を映し出す鏡(刑務所の高齢者) 6回目 海外の刑務所(ノルウェーやイタリア) 7回目 犯罪学と死刑(世界から見た日本の死刑) 8回目 前半のまとめ(復習) 9回目 犯罪理論Ⅰ(犯罪生物学：遺伝と犯罪)			10回目 犯罪理論Ⅰ(犯罪精神医学：人はなぜ犯罪者となるのか？) 11回目 犯罪学理論Ⅰ(犯罪心理学：人はどうして犯罪をするのか？) 12回目 犯罪理論Ⅱ(犯罪社会学：社会が犯罪を作り出すのか？ シカゴ学派) 13回目 犯罪理論Ⅱ(犯罪社会学：社会が犯罪を作り出すのか？ 分化的接触理論) 14回目 犯罪理論Ⅱ(犯罪社会学：社会が犯罪を作り出すのか？ ラベリング理論・社会的学習理論) 15回目 後半のまとめ			

〈授業時間〉2講時：11:00－12:30 4講時：15:15－16:45 5講時：16:55－18:25

注：上記担当者の所属等は2025年2月現在のものです。

授 業 科 目	アディクション論		2単位 (本学学生)	/	22.5時間 (社会人等)	担 当 者	加 藤 武 士 木津川・奈良ダルク代表・保護司
授 業 テー マ	アディクション領域における薬物政策・当事者活動・アドヴォカシー						
開 講 曜 講 時	〈深草学舎〉水曜日第4講時(前期)						
講 義 概 要	アディクションは現代の社会課題の一つである。健康問題としてのアルコール・薬物依存、刑事事件としての盗癖・薬物問題、さらにギャンブルによる多重債務、虐待など、さまざまな事象がある。この講義では、アディクションの医療的定義と治療法、アディクション問題を持つ人が抱える並存障害、刑事司法におけるアディクションの取り扱い、自助グループ等におけるリカバリーのダイナミクスについて、その発生から解決の過程までを多角的に捉えながら、その歴史と実践、問題解決の在り方について講義する。多くの事例を示しながら、アディクションと関連諸問題について、個人の側からだけでなく、社会の側からも考察する。事例では、講師からの講義だけでなく、受講者と積極的に議論を行う。						
講 義 計 画	1回目 アディクション論 概説 2回目 薬物とアディクションの歴史 3回目 アディクション・リカバリーの概念と法的枠組み 4回目 アディクションと刑法 5回目 パーソナルヒストリー 6回目 アディクションと自己治療説 7回目 回復のダイナミクス 病者としての／回復者としての当事者性 8回目 日本の障害者福祉政策におけるアディクション			9回目 依存症の心理学的側面 ラットパーク 10回目 世界の薬物政策① ～War on Drugs まで 11回目 世界の薬物政策② ～ドラッグコート・ハームリダクション 12回目 ポルトガル・カナダ・タイでの薬物寛容政策 13回目 アディクション問題に対する政府の対応と法的政策 14回目 アディクションとスティグマ 15回目 アディクション論総括			

授 業 科 目	犯罪心理学	NEW	4単位 (本学学生)	/	45時間 (社会人等)	担 当 者	安 田 潔 元 神戸少年鑑別所長
授 業 テー マ	犯罪者の心理と対策						
開 講 曜 講 時	〈深草学舎〉火曜日第2講時(通年)						
講 義 概 要	「人はなぜ犯罪を行うのか」、犯罪(非行)事例を心理学の立場から分析することで、この問いを考察します。 矯正施設の現場で応用されている臨床心理学や社会学、犯罪学等の理論、犯罪統計データ等を交えつつ、各種犯罪・非行の事例を検討し、その原因を明らかにすることで犯罪現象への理解を深め、もって、司法・犯罪分野における実践力を高め、支援の在り方を学びます。						
講 義 計 画	1. 犯罪心理学の3領域(捜査、司法、矯正・保護)			15回目 社会と犯罪1(社会が犯罪者を作る。)			
	1回目 概説			16回目 社会と犯罪2(誰もが犯罪者となり得る。)			
	2回目 刑事司法手続と心理学			17回目 デュルケムの犯罪論(コントロール理論)			
	3回目 捜査心理学(プロファイリング等)			6. 各種犯罪			
	2. 犯罪者観の変遷			18回目 非行少年(ドリフト理論)			
	4回目 古典学派			19回目 高齢犯罪者(矯正と福祉)			
	5回目 実証学派			20回目 女性犯罪			
	3. 犯罪の要因			21回目 日本の治安			
	6回目 遺伝			22回目 銃器犯罪			
	7回目 知能			23回目 殺人の心理			
	8回目 性格(パーソナリティ障害、サイコパス)			24回目 放火の心理			
	9回目 精神疾患(責任能力)			25回目 薬物犯罪の心理(治療の在り方)			
	10回目 身体疾患(脳器質障害、睡眠等)			26回目 性犯罪の心理			
	4. 犯罪非行に係る問題			7. 心理専門職の実務			
	11回目 発達障害			27回目 心理検査・面接調査			
	12回目 摂食障害			28回目 非行臨床の留意点等			
	13回目 家庭の問題(虐待と非行)			29回目 犯罪者処遇(認知行動療法)			
	5. 犯罪理解の基礎			8. まとめ			
	14回目 アドラー心理学の観点			30回目 補充とその他のトピックス			

授 業 科 目	刑事司法と福祉 <div>NEW</div>		2単位 (本学学生)	/	22.5時間 (社会人等)	担 当 者	掛 川 直 之 立教大学コミュニティ福祉学部准教授 龍谷大学矯正・保護総合センター嘱託研究員
授 業 テー マ	刑事司法ソーシャルワーク入門						
開 講 曜 講 時	〈深草学舎〉月曜日第2 講時（前期）						
講 義 概 要	罪を犯した人びとに対してどのように刑が執行され、その後、どのように地域に戻ってくるのか。また、出所者と呼ばれる人びとが、どのような問題を抱えているのか。かれらが地域に戻るために必要と思われる福祉的な支援と、その担い手や機関についての理解を深める。						
講 義 計 画	第1 回 出所者になぜ福祉的支援が必要なのか？ ：オリエンテーション 第2 回 〈犯罪者〉はどのように裁かれるのか？ ：刑事司法システムの概要 第3 回 刑務所では何がおこなわれているのか？ ：成人矯正処遇の概要 第4 回 刑務所に収監することがなぜ刑罰になりうるのか？ ：成人矯正処遇の国際比較 第5 回 刑務所に収監され出所するということを具体的にイメージする ：犯罪行為の背景 第6 回 〈非行少年〉はどのように裁かれるのか？ ：少年司法システムの概要 第7 回 少年院では何がおこなわれているのか？ ：少年矯正処遇の概要 第8 回 社会のなかで出所者はどのように「処遇」されているのか？			：更生保護制度・医療観察制度の概要 第9 回 社会のなかで出所者はどのように「支援」されているのか？① ：地域生活定着促進事業の概要 第10回 社会のなかで出所者はどのように「支援」されているのか？② ：民間団体による支援の概要 第11回 依存症の課題をいかにのりこえればいいのか？ ：罪種から考える 第12回 出所者を支援するということを具体的にイメージする ：刑事司法ソーシャルワーカーのしごと 第13回 出所者支援におけるソーシャルワーク実践を疑似体験してみる ：事例演習 第14回 被害者にはどのような支援がされているのか？ ：犯罪被害者支援の概要 第15回 第1 回から第14回までのまとめ			